

阿佐ヶ谷美術専門学校同窓会  
2003年度第8回および  
2004年度第1回幹事会議事録

●日時  
2004年6月5日(土) 14:30~17:00

●場所  
阿佐ヶ谷美術専門学校 521号室

●出席者  
秋元圭一 [会長]  
西田一成 [常任幹事]  
甲斐光省 [副会長]  
大村政幸 [常任幹事]  
松岡和彦 [常任幹事]  
小山 弘 [常任幹事]  
中島かおる [常任幹事]  
三好耕之 [幹事]  
藤川正美 [幹事]  
下地典子 [幹事]

●委任欠席  
浅見 博 (→西田氏)  
目須田修 (→西田氏)  
菊池 満  
日野 高 (→秋元氏)  
渡部征明  
浜村圭一 (→秋元氏)  
西谷之男  
五野勝弘  
三浦嘉久  
川島昭作 (→西田氏)  
勝山昌幸 (→秋元氏)  
角谷祥子  
岸 明美 (→西田氏)  
藤原成理 (→松岡氏)  
益子直子

常任幹事出席者7名  
委任状欠席者15名  
定足数成立  
(欠席された幹事の方の氏名は省略させていただきます)

●議事進行  
議長・進行/小山 弘  
●書記/町田和久

●議題  
議題1/  
常任幹事会内での次年度の申し合わせ

議題2/  
2003年度決算と3役の承認  
2004年度予算報告と活動計画の承認

議題3/  
その他 意見交換会

次回日程

会議の前に小山氏から会議進行表・今年度の予算案・同窓生在校生支援委員会からの報告書・出納帳のコピー・選挙報告書などが配られた。

議題1/常任幹事会内での次年度の申し合わせ

●2004年度役員リスト・予算案・監査・会費徴収委員会について

会長の秋元氏から役員リスト(仮)についての説明があった「会長の私については昨年の選挙で再選・指名を頂き、任期2年ということで今年度も会長職を継続したい。前年度の役員の方々も継続して頂けると思われる方々の名前をあてはめています。この中で役職を変わりたいという人があれば皆さんの合意の上で異動することはかまわないと思う。それ以外の方については、この会議の中で他の役職に就いてもらうように皆さんの合意のもとで決めたい。決まらなかった人に関しては役職を決めて、後日、意志確認をとりたい。それと、各担当のリーダーは私以外でも連絡をとりあってほしい」と述べた。

次に同窓生・在校生支援委員会の予算案に関して、担当の渡部氏が欠席の為、会長から説明があった「(秋元)工房体験ツアー、学園祭、講演会、卒展、卒業式、同窓会という項目に分けて予算立てをおこなった。渡部氏からは、一人だけだとコントロールできないうえ、コミュニケーションの行き違いによる不具合もあるので、各担当者を別につけてほしいという要請があった為、このような区分けにした。ただ、学園祭、卒展、卒業式などの学校行事に絡むものは、学校の教員・職員の幹事さんに入ってほしい」と述べた。

さらに、今年度の会計と会費徴収委員会についての説明を行い「(秋元)一昨年度は日野氏にお願いしたが、昨年度は私と小山氏でつけ合わせをして集計した。今年度は会計の担当を大村氏に決定した。会費徴収委員会については土橋氏が辞退されたので、会則検討委員会内で話し合うようにする。さらに希望者がいればメンバーを増やしていきたい。土橋氏が考えていた事としては、入学時に会費1万円を徴集しているが、それ以外の徴収方法も検討したいとの事だった。例としては年に1回、決算と予算報告書の発送時に、振り込み用紙を同封する事も考えられる。これらのことを含め、会則検討委員会で継続して話し合っていきたい。今年は月1回くらいの機会が集まりたいと思っている」と述べ、意見として「(西田)会計と監査は別にした方がよい。とくに監査は第三者的な立場で見えてくれる方がいい。1年に何回かは指名した方に監査報告を行ってもらってはどうか?」(秋元)ここ何年かは前年度まで常任幹事をやっていた方に、協力してもらっていた。今年度に関しては土橋氏と中島氏にお願いしたい」と述べた後、各役員と担当を協議して下記のように決定した。

会 長 秋元圭一  
副 会 長 日野高 甲斐光省  
事務局長 小山弘  
事務局員 角谷祥子 益子直子  
会 計 大村政幸  
選挙管理 三浦嘉久 勝山昌幸  
名簿連携 西田一成  
W e b 松岡和彦 大村政幸 高橋北斗  
会則検討(会費徴収準備) 甲斐光省 渡部征明 松岡和彦 藤原成理 秋元圭一  
広報・在校生支援 渡部征明 藤原成理

●学校長の話

次に本年度から校長職に復帰された三輪先生に参加していただき、今後、学校と同窓会でどのような関係を築いていくのか、意見と展望を述べてもらった。

「(三輪校長)今年の4月からまた阿佐ヶ谷美術学校の校長に復帰させて頂きました。それまで学校外から見ていた感想として、本来は同窓会でやって頂くことを学校が行なっていた事がある。具体的にはBAIRI賞で、今までは学校でこの賞を出していたが、本来は同窓会で出すべき内容だと思う。学校で出来ない事を同窓会でやって頂き、同窓会で出来ない事は学校で行う。そういう関係がいいのではないのでしょうか」と述べ、それを受けて「(秋元)これからは同窓生を主体にした行事に関しては同窓会で協力していきたい。今年のBAIRI賞に関しては7万円の予算を用意した。BAIRI賞に関しても詳細が分からない状況でしたので、今後、学校の行事、催事等のインフォメーションを把握できるように、連携を強めていきたい。そこで、同窓会と学校とのパイプ役を渡部氏にお願いし、今後は同窓会の予算・決算の内容も学校に伝えるようにしたい。卒業展の賞に関しては、昨年度は一部会場が別れていた為に、厳正な選考が出来なかった。もし、今回も同じようなら各会場に花束を送る形にした方がいいのではないかと意見もある。今年度の予算は、昨年と同様の予算を組んでいます、展示方法はなるのでしょうか?」(学校長)基本的には昨年と同じで、会場が別々の展示方法になりますが、もう少しまとまった形になると思います」(秋元)花束という形か、今までと同じ賞金で渡して上げるのがよいかは、もう少し話を詰めていきたい」と述べ、卒業展の賞に関しては展示方法がはっきりした時点で話し合うこととなった。

●広報/同窓生・在校生支援について

会長から追加説明として「(秋元)昨年工房体験ツアーを企画したのだが、人が集まらなかった。今年は人数が少なくても実施して、実績を作りたい。広報・在校生支援については渡部さんに全体を見てもらい、それぞれの項目に担当者をつけて担当者と渡部氏との間で話しを進めて行く形にしたい」との意見に「(西田)ツアーについては限られた人数でやるのは難しい。実際に渡部氏がみんなに声をかけて一丸となって動いてくれれば可能かもしれないが、現状は難しい。今年度の同窓会プロジェクトとして、今年はこちら1本で行きましょうという形でないかと厳しい」(秋元)確かに命令系統をはっきりさせることは重要なかもしれない。ただ、基本的には参加してくれる人が日常生活のサイクルをやりくりして、同窓会に協力するという気持ちが生まれなければ難しいかもしれない。将来それが具体的にあっていって、組織として安定的に機能してゆくのであれば対価を払うことも考えられる。ツアーや講演会は全部は無理かもしれないが、1つでも形にするために協力出来る人で手を上げてもらって具体化したい。その事が次に繋がると思う。今年度は体験ツアーと講演会のどちらか一方でも具体化していきたい」と締めくくった。

## 議題2 2003年度決算と3役の承認/2004年度予算報告と活動計画の承認

### ●2003年度決算について

事前に幹事の方に承認・不承認の意志を『お知らせ』で伺っていたため、事務局の小山氏から結果発表をおこなった。「承認」172名（返送なし含む）、「不承認」0名ということで2003年度決算については承認された。

### ●3役の承認について

会長の方から前年度から引き続き継続（会長：秋元氏、副会長：日野氏、甲斐氏、事務局長：小山氏）してもらうことを発表し、3役の承認を挙手で確認、全会一致で承認された。

### ●2004年度予算報告と活動計画の承認について

「(松岡)BAIRI賞の協賛金を含め、今後はそのような『賞』についてはどうするのか?」「(西田)私達がもう少し使い方を自覚した方がいい。一つ一つの事柄に対応していると、何か出るたびに寄付金をお願いしますとなりかねない。個別の出費はやめた方がいい」との質問や意見に対し「(秋元)今回のBAIRI賞の協賛依頼は急だったので、それが同窓会とどう関わるのか、説明不足ではっきりしていない所があった。学校長が変わって前任者の菊池校長と三輪校長のお考えが違ってきたなかで、渡部氏を通してお話があったので、今回は予算として出してもいいと私の方で判断した。今回に関しては協賛金という形で予算を計上します。今後はこのような場合、同窓会が引き取るべきなのか、あるいは学校側に全部まかせて、同窓会としては協賛ないしは補助する形がいいかなどを含め、今回の協賛後に話し合いをして詰めていきたい。学校側から色々協賛してほしいとの要望が膨らんでいく状況であれば、年間で予算を定めるなどを検討する」と述べた。それに対しての意見として「(西田)年間に約150万円の会費が集まるが、同窓会の運営費を含め寄付金などで3分の1弱の経費は使ってしまう。割合としては大きいかなと。また、協賛金という形は特定の方に片寄せた援助になってしまう。みんなで使える機材など、同じお金でもそういう使いかたの方がいい」「(秋元)学校側と予算協力については、同窓会が納得できる形であればおこなってもいいと思っている。学校の方からも事前に渡部氏を通して早めに情報をもらい、つぎの予算に組み込むかを検討するのがいい。今回のような場合、各予算が確定した後に緊急的に発生した問題だった。西田氏と同意見で学校側から言われたままに予算を出す事はしたくない」と締めくくった。

次に事務局の予算について担当の小山氏から「事務局員の手当については、今年度は1時間1000円でやっていきたい。週1回妻に来てもらってテスト運営をします。少しずつ学校の方で活動していく割合が増えればと思います」と述べた。

また、秋元氏から新入生の入会金について「今年度の予算案の中で、前年度実績と同額の184万円で計上したが現時点で150名（150万円）でした。昨年よりも34名少なくなり、これから利益のするような企画も考えないといけないかもしれない」と述べた後、小山氏の方から2004年度の活動計画と予算案の承認を挙手で確認、全会一致で承認された。

## 議題3 意見交換

今後、「同窓会を発展させるには」というテーマで、幹事の方々を交えた意見交換を行った。

### ●ホームページについて

「(三好)ホームページの立ち上げはよかった。同窓生の友人にも連絡して見てもらった。こういった積み上げが大切なかもしれない。卒業しても何年目かに連絡のつけられるシステムが考えられないか」

「(秋元)ホームページはもっと個人的な形で書き込んでもらってもいいと思っている。同期の結束を強めるためにクラス会を開いてもらえるとうれしい」「(松岡)更新はなかなか難しいのが現実で、掲示板にはどんどん書き込んでほしい」「(秋元)ホームページに各先生達の昔の写真やその後の情報などを提供してもらい載せたらどうか、また、常任幹事会の日程をホームページに載せて一般の会員に来てもらうのはどうか」などの意見があった。

### ●選挙方法について

「(藤川)選挙ですが他の年代の方々が全くわからない。そのため選出の基準がつけられず現在の形式では選挙の意味がないのではないか」「(秋元)選挙については会則検討委員会の中で、第一優先で検討する予定です。今後はわかりやすい選挙になるようになるべく早く形にしたい」「(藤川)幹事の方を中心に横のつながりをつければ、活発になって同窓会ももっと変わると思う。それと、本気になって同窓会の意義を考えて活動していかなければ、拡大できないのではないか」「(松岡)選挙の改訂を含め積極的に活動してくれる、常任幹事以外の人達が入れるようにしたい」などの意見があった。

その後、副会長の甲斐氏から第1回の会則検討委員会の会合を、6月24日18時より新宿で行うことも決定した。

## 次回日程

7月31日(土)15:00～の幹事会日時の確認をして議会は閉会した。